

解 説



回顧企画 品質工学会 10 周年記念品質工学大討論会

日本を救う技術課題の解決

Technical Challenges and Solutions to Save Japanese Industries
— Retrospective Presentation from the 10th Anniversary Lecture of ROES —

品質工学会名誉会長 田口 玄一

Genichi Taguchi

(編集：矢野耕也，田口 伸)

2002年11月22日，東京ビッグサイトで品質工学会10周年記念講演が行われ，基調講演は故田口玄一名誉会長により行われた。まだMTA法も出ていないころであるが，当時の会員数は2200名余で，東京ビッグサイトに1000名以上の聴講者が集まったと記憶しており，学会に勢いがあった時代である。講演を聞いた方は多かったと思うが，そのままになっていたことから，今回は学会創設10周年時を振り返る意味で，当時の撮影画像の音声から発言記録を起こして編集した。

1. 品質と機能

この表題は私が決めたものじゃなくて，実行委員会の方から頂いたものなので，これから実際にしゃべる内容は多分違うと思います。品質工学という名前も微妙なところがあるのですが，品質工学という品質は，お客の欲するものではなく，お客が欲しないものである。そのことをアメリカ機械学会で発表しました。そのせいかわかりませんが，アメリカ機械学会の名誉会員に推挙するということで，数年前に名誉会員になったわけです。

ところで顧客が欲しくないものというのは何かということですが，たとえば故障だとか公害だとかメンテナンスのコストです。これはお客に聞く必要はないもので，ではお客が欲するものは何かを考えると，これ非常に難しいわけです。今日ここにおられる皆さまの洋服一つ考えても一人一人全部違う。誰が着ている洋服はいい品質で，誰が着ている洋服はいいか悪いか。こういうことについては男性は駄目ですね。女性それぞれ意見を持っています。女性

はアクセサリだったらいくらでも欲しい。洋服もいろんなものを買いたい。ですから，女性にカネを与えればたくさん買うわけで，今の政府が困っている消費の問題の多くは解決することができるかも知れない。ただ品質工学は，残念ながら女性が考えているような欲するものを議論しません。たとえば，今新宿の高島屋百貨店に行きますと，お塩だけで70種類売られている。大部分は輸入製品ですが，どの塩が良くてどの塩が悪いかなんて誰も分からないし，ましてや男性にはもっと分からないが，女性ならばそれが分かるかもしれない。今言ったように，品質工学という品質とはお客が欲しないものです。欲するものについては機能と体感。これは英語では一言でfeatureと使うわけですが，お客が欲しないものというのは，故障とかばらつきとか公害とかコストなのですね。コストの中にもたくさんありますけれども，実際にはいらんというものです。

こういうことはもう聞かなくても分かりますが，技術者は100%責任を持たなければならないということです。製品設計者とか製品開発者が責任